

- iBT探検隊: iBTってなに? ■ 日本から発信する英語
- CIEEオフィス紹介:京都 ~慶應義塾大学SFC 鈴木佑治教授によるコラム~
- 必見! 耳より情報 ■ 言葉の玉手箱



\*TOEFLは、エデュケーションナル・  
テストング・サービス(ETS)  
の登録商標です\*

 メールマガジンに登録する



皆様、ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたでしょうか?  
お休みが明けて、5月病などにかかっていますか?

今月のTOEFLメールマガジンは2005年9月に導入が予定されている次世代TOEFLについて、ETSより発表される内容を皆様に一つずつお伝えしていく新しいコーナー「iBT探検隊」を加えました。

その他、CIEEの西日本オフィス(京都)の紹介、6月に開催が決定した沖縄でのTOEFL研究セミナーと次世代TOEFL説明会のお知らせや、人気の高い「日本から発信する英語」と「言葉の玉手箱」を掲載しています。

どうぞお楽しみください。

iBT探検隊: iBTってなに? [Click!](#)

2005年9月より導入が予定されている次世代TOEFLテストについて紹介する新コーナーです。新たにSpeakingが加わり総合的な英語運用能力を測るこのテスト。一体どんなものなのかを分かりやすく解説しています。

CIEEオフィス紹介: 西日本オフィス(京都) [Click!](#)

CIEEはメインオフィスを東京に構え、京都、福岡の2都市にそれぞれオフィスがあります。今回は桜の綺麗な西日本オフィス(京都)をご紹介します。

必見! 耳より情報 [Click!](#)

6月12日に「TOEFL研究セミナー」の実施が決定しました。財)沖縄県国際交流人材育成財団と共催で、アカデミックライティングとその指導法に焦点をあてた内容です。その他セミナーに関するお知らせ・報告を掲載しています。

連載: 日本から発信する英語 [Click!](#)

慶應義塾大学SFCの鈴木 佑治先生による「ことば」にフォーカスしたコラム。5回目は「コミュニケーションとことばのスタイル」をテーマに、社会生活の中で習得していく「ことばの構造」についてのお話です。

言葉の玉手箱 [Click!](#)

Temple University Japan助教授の川手-ミヤジェ イェフスカ 恩先生による、異文化間コミュニケーションにおける言葉の使い方に焦点をあてた人気コーナーです。川手先生による興味深い解説とともに、言葉の意外な一面をお楽しみください。

- iBT探検隊: iBTってなに? ■ 日本から発信する英語
- CIEEオフィス紹介:京都 ~慶應義塾大学SFC 鈴木佑治教授によるコラム~
- 必見! 耳より情報 ■ 言葉の玉手箱



\*TOEFLは、エデュケーション・テストング・サービス (ETS) の登録商標です\*

> [HOME](#)

## iBT (NGT) 探検隊: iBTってなに?

2005年9月に導入が予定されている次世代TOEFLテスト。前回のメルマガでTOEFLテスト運営団体であるETSのオフィシャルサイトで概要がご覧いただけるようになったことはお伝えしたばかりですが、この次世代TOEFLテストについては、日々様々な情報がアップデートされております。このコーナーでは、ETSより発表される次世代TOEFLテスト情報や関連情報をお伝えしていきます。第1回目は【iBTってなに?】です。

国際基準の英語運用能力テストをリードして40年以上の歴史を持つTOEFL(Test of English as a Foreign Language)テストは、今では毎年800,000人近くの受験者がいます。このTOEFLテストが2005年にさらなる進化を遂げます!!それが「次世代TOEFLテスト/Next Generation TOEFL(iBT)」です。



2005年9月に導入が予定されているiBT。皆さんは、ご存知ですか? このテストの特長は、Reading/Listening/Writing/Speakingの4技能を総合的に組み合わせ、実際にあるアカデミックな言語環境にどれだけ対応できるかを測る新世代のテストです。現在のTOEFLテストを実施・運営している米国非営利団体ETS (Educational Testing Service) が、長年の研究からアカデミックな場面で使われている270万語を駆使し、このiBTに活用しまし

た。

### iBT (次世代TOEFLテスト) の概要

「次世代TOEFLテスト」は、4つのセクションから構成され4時間程度のテスト内容になる予定です。全てのセクションは同日に終了し、全てのセクションを通してメモを取ることが可能になります。

#### READING :

- 3つのパッセージに関するコンプリヘンション問題
- 現行のComputer Based Tasting(CBT)に類似した問題
- 新しい出題形式の問題
- ReviewやGlossaryなど受験者にフレンドリーな新機能

#### LISTENING :

- 実際に大学などで耳にする状況に類似した会話や講義のリスニング問題
- 現行のComputer-Based Tasting(CBT)に類似した問題
- 新しい出題形式の問題

#### SPEAKING :

- コミュニケーション能力、明瞭で首尾一貫した説明能力、与えられた情報の処理能力を総合的に測る
- 6問をマイクに向かい音声で解答
  - 2題のIndependent Tasks
  - 4題のIntegrated Tasks

#### WRITING :

- 内容の理解能力だけでなく、明確に、そして正確に文章を構成する力を測る
- Integrated Task



[iBTのツアーへ](#)

- ・ 短めの問題文を読み、講義の一部を聞いてから、エッセイをタイプする問題
- ・ Independent Task
  - ・ TWEやCBTのWriting Sectionに類似した問題

## スコアに関する情報

Score Scale :	各技能ごとのスコアが算出され、4技能全てのトータルスコアも出され ます。 また、既存のTOEFLスコアとの換算表も発表されます。
Score Report :	スコア利用団体である大学、企業の方々には朗報のWebによるスコア通知 が始まります。
Score Descriptions :	獲得スコアから英語コミュニケーション能力の目安がわかります。
Online Scores :	テスト受験者は、現在のようにスコアが郵送されるのを待たなくてもオン ラインでスコアの確認ができるようになります。

詳しくは、ETSのWebサイトをご覧ください。

- ・ 新TOEFLテストのツアーやサンプル問題もご覧いただけます。
- ・ スコアに関する情報や基本情報も提供  
インタラクティブなQ&Aセッションにも参加できます。
- ・ 2004年7月からは完全版の練習ができるようになります。

### ETS公式Webサイト

<http://www.ets.org/toefl>

大学をはじめとした教育機関の方々のお問い合わせ先  
(米国)

[toeflnews@ets.org](mailto:toeflnews@ets.org)

その他、関連教育支援ツール ([Criterion](#)、[LanguEdge™](#))

に関するお問い合わせ先

国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部 TOEFL  
事業部

<http://www.cieej.or.jp>

[toefl@cieej.or.jp](mailto:toefl@cieej.or.jp)



次回の第2回目の【iBT探検隊】は、iBTで特徴的なSpeaking Sectionに関連したTASTについてお伝えしま  
す。

[Back to top](#)



- iBT探検隊: iBTってなに?    ■ 日本から発信する英語
- CIEEオフィス紹介:京都     ~慶應義塾大学SFC
- 必見! 耳より情報            ■ 言葉の玉手箱             鈴木佑治教授によるコラム~



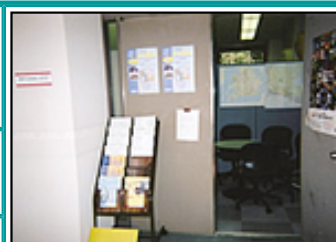
\*TOEFLは、エデュケーション・テストング・サービス (ETS) の登録商標です\*

[> HOME](#)

## CIEEオフィス紹介：西日本オフィス（京都）

当協議会は東京をヘッドオフィスとして、京都に西日本オフィス、福岡に九州オフィスがあります。今回は、西日本オフィス（京都）を紹介します。

所在地：	〒606-8436 京都府京都市左京区粟田口鳥居町2-1 京都市国際交流会館3階
電話：	075-752-1130（月～金 9:30～17:30）
開館時間：	火～金 9:30～17:30 （京都市国際交流会館は、月曜休館です）





1989年に開設された西日本オフィスは、京都市国際交流会館の3階にあります。

京都市国際交流会館は京都に来る外国人のための情報提供の場として、また海外と京都を結ぶ国際交流の重要な役割を担っている施設です。会館内では、1年を通じて日本語教室や華道をはじめとした日本文化の紹介や、様々な国際交流のイベントが行われています。そんなインターナショナルな環境にあって、CIEE西日本オフィスは開設以来、CIEEの関西での情報発信地として、CIEEプログラムを提供しております。現在、職員2名と

アルバイト1名が事務所運営に関わっております。皆様からのお問い合わせ対応のほかに、高校生1年間アメリカ交換留学プログラムの説明会や、大学生・一般社会人対象の短期語学研修のカウンセリングなども行っております。CIEE各プログラムのパンフレットも配布しております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

春は桜、秋は紅葉と京都市国際交流会館の周りは1年を通じて美しい自然がいっぱいです。また南禅寺や平安神宮、哲学の道など京都の有名な神社仏閣や観光地が近くにありラッキーなことにオフィスの窓からはビルではなくて、緑の木々が見える素晴らしい環境で私たちは仕事をしています。



\*\*\* 京都オフィスには、2名のスタッフが常駐勤務しております。

皆様どうぞよろしくお願ひいたします。\*\*\*



### 【京都情報】

古いものと新しいものがうまく調和している京都は、ここ最近、人気急上昇して週末や連休ともなると大勢の観光客で賑わっています。春や秋にはライトアップされた桜や紅葉を有名な寺院で見ることができます。外国人も非常に多く、日本式旅館などが増えています。

また京都は東西南北どこへ行っても名所・旧跡を見ることができ、道路が碁盤の目になっているので、地理もわかりやすく、地下鉄や市バスを利用すれば、大小様々なお寺や神社、庭園など見て廻れます。

京都一番の繁華街である四条界隈に並んで、ここ最近では京都駅前の駅ビルが建って以来、京都駅周辺が賑わってきました。四条や河原町、京都駅前では、食事時になるとガイドブックで紹介されたお店の前に人だかりができます。

[Back to top](#)

- iBT探検隊: iBTってなに? ■ 日本から発信する英語
- CIEEオフィス紹介:京都 ~慶應義塾大学SFC 鈴木佑治教授によるコラム~
- 必見! 耳より情報 ■ 言葉の玉手箱



\*TOEFLは、エデュケーション・テストング・サービス (ETS) の登録商標です\*

## 必見! 耳より情報

セミナー・説明会等 開催のお知らせ

英語教育者向け TOEFL研究セミナー (沖縄) 開催のお知らせ (こちらのセミナーは、すでに終了しました)

共催: 財団法人 沖縄県国際交流人材育成財団

開催日時:	2004年6月12日(土) 14:00~16:00
会場:	財団法人 沖縄県国際交流人材育成財団 大会議室
	地図は <a href="#">こちら</a>
テーマ:	アカデミック・ライティングとその指導法
	1部 「アカデミック・ライティングとその指導方法」
	2部 「Criterionの紹介とそれを利用したライティングの指導方法」
発表者:	ETS公認コンサルタント 川手・ミヤジェイエフスカ 恩(めぐみ)氏

この度、2003年から日本各地で実施してきた「TOEFL研究セミナー」が沖縄に初上陸します!!

2003年冬(大阪・福岡・広島)、2004年春(東京・札幌・名古屋)の各シリーズで、多くの地域でご好評をいただいているTOEFL研究セミナー。2部構成で、前半にETS公認コンサルタントの川手・ミヤジェイエフスカ 恩先生によるアカデミック・ライティングの指導方法に焦点をあてた発表、後半にETSが開発したオンラインによる自動ライティング評価ツールである【[Criterion](#)】の紹介を含む内容となっています。



こちらのセミナーは、すでに終了しました。ご参加いただいた皆様、有難うございました。

担当者向け 次世代TOEFLテスト (NGT) 説明会 (こちらのセミナーは、すでに終了しました)



今回の沖縄でのTOEFL研究セミナーの実施にあたり、前日の6月11日（金）には同じ会場（財団法人 沖縄県国際交流人材育成財団 大会議室）で、英語教育関係者向けのTOEFLテスト説明会を実施します。2005年9月に導入予定の次世代TOEFLテスト（Next Generation TOEFL）の概要説明と共に、現行のTOEFLテスト（CBT、PBT）全般に関する申し込みからスコア受理までの疑問や、オフィシャルTOEFLテスト（TOEFL-PBT）の過去問題を利用した団体向けTOEFLテストプログラム（TOEFL-ITP）に関する情報提供など、ご担当者の皆様の疑問、質問にCIEEスタッフがお答えするコーナーです。是非、この機会にTOEFLテストのアップデート情報をお持ち帰りください。

こちらのセミナーは、すでに終了しました。ご参加いただいた皆様、有難うございました。

## Come&Touch・セミナー報告

### ETS教材体験 Come&Touch in 北海道

札幌	
日時：	2004年4月16日（金） 13:30～15:00、 15:30～17:00
会場：	北海道経済センタービル8F 第二会議室
テーマ：	ETS教材CriterionとLanguEdgeの紹介



Come&Touchは、ETS開発の【Criterion】と【LanguEdge™】という指導者向けの両ツールの体験セッションです（東京オフィスでは予約ベースで毎日実施）。はじめて札幌で行われた今回のセッションでは、既にCriterionをご存知の先生も多く、Criterion自体の認知度の高さが伺えました。12日のTOEFL研究セミナーでも登場するこのCriterionは、TOEFLテストのTWE (Test of Written English)の過去問題の膨大なデータをもとに自動採点を行うプログラム、E-rater®を採用したライティング指導用ツールです。瞬時（約20秒ほど）に採点・分析が行われ、添削に特に時間のかかるライティング指導のアシスタントとして英語教員にはうってつけのツールです。

### TOEFL研究セミナー 2004春シリーズ

テーマ：	アカデミック・ライティングとその指導法
	1部 「アカデミック・ライティングとその指導方法」
	2部 「Criterionの紹介とそれを利用したライティングの指導方法」
発表者：	ETS公認コンサルタント 川手・ミヤジェイエフスカ 恩（めぐみ）氏
上記は、全セミナー共通です。	

## 東京

日時： 2004年3月25日（木） 18:30～20:20

会場： 東京ウィメンズプラザ 第1会議室B

春休み中の夕方、お天気も芳しくない平日でしたが、ご参加いただいた教育関係者の皆様は熱心にセミナーの内容に聞き入っていました。アカデミック・ライティングについてのほか、2005年9月より導入予定の次世代TOEFL（Next Generation TOEFL、通称NGT）についても質問を多く頂きました。その後、当協議会のレセプションエリアで行われた懇談会ではアット・ホームな雰囲気の中で各大学、高等学校の情報交換の場としてご活用いただけたのではないかと思います。

## 札幌

日時： 2004年4月17日（土） 14:00～16:00

会場： 札幌国際プラザ コンベンションホールA

雪というあいにくのお天気の中、会場の札幌国際プラザには多くの皆様にお越し頂き、北海道に初上陸したTOEFL研究セミナーは無事終了することができました。その後の懇親会でも、皆様にはTOEFLテストに限らず英語教育に関する有意義な情報交換の場としてご活用いただけたのではないかと思います。



## 名古屋

日時： 2004年4月24日（土） 14:00～16:00

会場： 中日ビル6階 第1会議室

2004年度の新学期が始まってすぐの教育者の方々にはお忙しい時期でしたが、高等学校、大学の教職員の皆様にお集まりいただき、質問も多く出る活発なセミナーとなりました。また、セミナー後の懇親会は、小規模なものとなりましたが、LanguEdgeに関するご質問を頂くなど、皆様がTOEFL関連情報には多くの関心を寄せられていることに改めて認識させられる一幕でした。

TOEFL事業部では今後もTOEFLテストの日本事務局として、皆様に有益な情報をお伝えしていきます。セミナーや説明会など様々な形式を考えております。最新情報は当協議会ホームページにてご確認ください。

[Back to top](#)

©2004, CIEE All Rights Reserved.



- iBT探検隊: iBTってなに? ■ 日本から発信する英語
- CIEEオフィス紹介:京都 ~慶應義塾大学SFC 鈴木佑治教授によるコラム~
- 必見! 耳より情報 ■ 言葉の玉手箱



\*TOEFLは、エデュケーション・テストング・サービス (ETS) の登録商標です\*

> [HOME](#)

## 日本から発信する英語

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス  
鈴木佑治 教授によるコラム

第5回目: コミュニケーションとことばのスタイル



SFCにおける鈴木研究室の取り組みは、[こちら](#)からご覧いただけます。

# Dr. Yuji Suzuki

慶應義塾大学SFC教授  
鈴木佑治(すずき・ゆうじ)氏

1944年3月2日生まれ。1966年、慶應義塾大学文学部英文科卒業。  
1978年、ジョージタウン大学大学院博士課程修了。Ph. D(言語学博士)。  
専門分野は、言語学(意味論、語用論)、英語学。

状況が変わるとコミュニケーションのスタイルも変わる

親密

カジュアル

インフォーマル

フォーマル

超フォーマル

コミュニケーションのメッセージは私達の日常の状況から生まれることは既にお話しました。今回は、状況の変化によりコミュニケーションのスタイルがいかに違うかをもう一度認識してことばの学習を考え直したいと思います。

私は、この原稿をコロンビア大学Teachers CollegeのClifford Hill教授の研究室で書いています。ヒル先生と私は、ニューヨーク市ハーレムの高校生と日本の高校生がオンライン上でお互いの文化を交換するプロジェクトを立ち上げようと考えています。その為の打ち合わせに久しぶりにニューヨーク市を訪れました。高校生がどういったスタイルでコミュニケーションをしていくかによって彼等のモチベーションはまったく違うでしょう。実はスタイルがメッセージも表現の仕方も全く変えてしまっているのです。コミュニケーションは私たちの日常生活そのもので、日常生活にはいろいろな状況があり、コミュニケーションはこの状況に沿って行われるのです。

日本人の多くが何年も何年も英語を勉強しても簡単な英語会話もできないと嘆くのもスタイルの問題を度外視しては考えられません。1968年に初めてアメリカに行った時に私が遭遇したのはことばの世界の膨大な広がりであったのです。すなわち、南部の方言は分からなかったのは仕方ないとして、その後カリフォルニアに行き人々の日常の会話というかコミュニケーションについていけなかったのです。日常のコミュニケーションはとてもインフォーマルでカジュアルです。対等で親密な人間関係を作る上でとても大切なコミュニケーションスタイルです。このレベルのコミュニケーションができる人には沢山の仲間がいます。それでは習えばいいのですが、簡単に習えるものではありません。ことばがあって人間関係が生まれるのではなく、人間関係があってそのことばができるようになるからです。人の輪の中に入り親密な関係が生まれて初めて親密なコミュニケーションが始まるからです。1950年代、1960年代に活躍した言語

学者にマーティン・ジュース(Martin Joos)という人が居ました。この人はコミュニケーションの状況を、コチコチで超フォーマルな状況、フォーマルな状況、インフォーマルな状況、リラックスしてカジュアルな状況、そしてさらに緊密な状況の5段階に分けました。それに連動してコミュニケーションやことばのスタイルも変化します。

[ページトップへ](#)

### コミュニケーションとことばの習得過程は親密な状況から

親密

カジュアル

インフォーマル

フォーマル

超フォーマル

物事には順序があるといいますが、子供は生まれると同時に母親とともにとても親密な関係を築きます。母子が一体化した親密でとても神聖な状況です。仏教の観音様、キリスト教のマリア像は母子のこのような関係を象徴したものではないでしょうか。人は成長して、多くの友、恋人、生涯の伴侶に出会い親密な関係を築きますが、母子のあらゆる利害を超えた親密な関係には成りえません。こんな状況から母子間のコミュニケーションが生まれますが、ことばが出る前は五感を使った非言語のコミュニケーションが生まれます。そして1歳何ヶ月かに1語文が生まれ、2語文になり、4歳過ぎてから主語や述部が整ったことばらしきことばを習得します。

最近、幼児がテレビを見過ぎているのでことばの発達が遅れているというニュースを見ましたが、こんなことを耳にすると幼児にテレビを見させない親が続出するかもしれません。ことばの発達が遅れているといいますが、何をもって「ことば」としているのかわかりません。重要なことはコミュニケーションが取れているかどうかであり、この時期のコミュニケーションの特徴として非言語表現によるものが多いので、「ことば」だけを注視するのは危険です。親にとっては子供そのものが愛のメッセージであり、惜しみなく愛情を注ぎます。これを確認すると段々と他のものにも関心を持つようになります。身の回りにあるものをじっと見つめて、やがてそれらに反応するようになります。幼稚園に行く頃になるとだんだん家族以外の人を意識するカジュアルな段階に移ります。

しかし、そこに至るまでの親子、家族の中での親密なコミュニケーションが確立していないと、成長してから友達を作り親密な関係を築くのが難しくなるかもしれません。ことばというのは物事を客体化する性格を持っています。ですから、この時期にことばを話すとしてもそれはメッセージ的にはかなり限定されたものであり、それはことば以外の表現でも十分表しえるものですから、ことばの量で一喜一憂するのはどうなのでしょう。

[ページトップへ](#)

### カジュアルからインフォーマルなコミュニケーションとことば

親密

カジュアル

インフォーマル

フォーマル

超フォーマル

幼稚園から小学校にかけて他の同年齢の子供に関心が向くようになります。親との親密なコミュニケーションを通して愛情を確信すると、ひとりでの外に対する関心が生まれるのでしょう。幼稚園や小学校に行ったりするので、朝から晩まで親とべったり一緒に居ることはなくなり、幼稚園や学校では家で体験していることを、家では幼稚園や学校で体験していることを、話したり絵を書いたりして表現するようになります。

しかし、初期のカジュアルなコミュニケーションには親密なコミュニケーションの名残があります。特に自分や相手を表現するaddress formsにその特徴が現れます。幼稚園児の中には自分のことを「エリちゃん」とか「ヤクン」とか言いますが、それは家での親密スタイルのコミュニケーションが引きずっている証拠です。まだ、自分中心で客体化できないので「ぼく」とか「あたし」などの代名詞が出てこないのです。

この時期のカジュアルなコミュニケーションは、親の保護を感じつつ同年齢の子供たちに向けられます。簡単に言えば家で一人遊びから仲間との遊びに変わるのです。仲間と遊ぶには、ことばもさることながら遊びのルールをしっかりと抑えなければなりません。遊びのルールはことばではなく身体で表現されるものが多いからです。男の子達は野球のルールをことばで覚えるのではなく、見たりやったりしながら体で覚えていきます。書かれているルールブックを読んで覚える子はあまりいません。「アウト」とか「セーフ」とか遊びながら体で覚えていくのです。小学校の低学年から高学年までこのような同年齢の仲間peer groupと共に遊びながら、カジュアルなコミュニケーションを身に付けていくのです。

従って、この時期にこのような機会を奪うと、同年齢の仲間とカジュアルなコミュニケーションをする能力が身につけません。塾通いが悪いとは言いませんが、物心つくかつかぬかの時から勉強勉強で仲間と遊ぶ機会を逸すると、カジュアルなコミュニケーションをする能力がそがれてしまいます。田舎育ちの筆者は、小学校の時には夏は海、冬は野山を駆け巡り、近所の同年齢の子供たちを集めてはガキ大将をして過ごしました。ガキ大将は勉強をしませんから学校ではできませんが、それなりに頭を使うのです。他の地域のガキどもとけんかをしなければなりませんし、仲直りもしなければなりません。その為には相手のことをよく調べ、自分の仲間の長所短所を知り尽くしてその日の遊びの段取りを考えるのです。野山にはマムシなどの毒蛇も居ますし、海では大波にさらわれるかもしれません。それでも朝から晩までとにかくよく遊んだものです。



その体験は大きくなってからアメリカでの生活で役に立ちました。サンフランシスコでの数年、ハワイでの1年、そして首都ワシントンでの数年、どこに行ってもカジュアルなコミュニケーションができる仲間ができました。筆者はそこでもガキ大将のようなものでした。その結果英語も上手になれたし、日本語を教える仕事もできて生活ができたのです。

【写真：ジョージタウン大学大学院時代の友人達と（右から2人目が筆者）】

[ページトップへ](#)

## インフォーマルなコミュニケーション

親密

カジュアル

インフォーマル

フォーマル

超フォーマル

中学生ぐらいになると、突如、フォーマリティーを意識するようになります。1年生は2年生を、2年生は3年生を先輩として意識し、先輩後輩関係が生まれてきます。生徒会やクラブ活動などがそういう状況を造り出すものと考えられ、日本語では語尾が「です」「ます」で終わることが多くなります。父親や母親的印象を与えた小学校の先生とは違い、先生に対しても言葉遣いも気を配るようになります。しかし、同年齢同士で培ったカジュアルなコミュニケーションに上塗りしただけの話し方ですから、「先輩、俺、腹へっちゃったス」なんていうぎこちない言い方になります。これが高校から大学2、3年生まで続くのです。即ち、社会人になるまではフォーマリティーを意識しながらもカジュアルであるというインフォーマルなコミュニケーション形態を満喫するのです。もちろん、中学生、高校生、大学生では、同じインフォーマルなコミュニケーションでも中身には大分差があります。そして伝達内容が抽象的になるにつれて、また、ことばへの依存度も年齢が上がるに従い上がっていくでしょう。日本のテレビのバラエティー番組などは若者主体に企画されているので、カジュアルからインフォーマルなコミュニケーションをベースにしたものが多く、これらの番組の影響も無視できません。また、日本人は実年齢より若く見せたいという願望が強く、特に女性のタレントやアナウンサーを「ちゃん」づけで呼ぶなど、カジュアルからインフォーマル、時には幼児的親密スタイルのコミュニケーションを好む傾向があります。アメリカ人の場合は自立願望が強く、高校生でも次のステップであるフォーマルなコミュニケーションを好む傾向があり、そうでない日本人とは好対照です。



フォーマルなコミュニケーションは社会に入ってから

親密

カジュアル

インフォーマル

フォーマル

超フォーマル

大学生も就職を探す頃になると、実業界との接触が増えフォーマリティーを意識せざるを得ない状況に投げ込まれます。慣れない敬語や謙譲語を習い会社の面接を受けるようになります。重役面接まで行くとフォーマルからコチコチのフローズン・コミュニケーションの場に投げ込まれます。先生と話した経験はありますが、会社のトップと面と向かって話すのは始めてです。

地方出身者にとって、親密、カジュアル、そしてインフォーマルなコミュニケーションは方言でよいものを、フォーマルになると標準語、それもフォーマルな標準語を話さなければならず二重苦に見舞われます。標準語話者でさえ慣れていないのに方言の話者には更に大変なことです。親密、カジュアル、インフォーマルなコミュニケーションは、ストリート・コミュニケーション、いわゆるストリート・トークで済みますが、フォーマルな標準語は書き言葉に近いのです。手紙なども話すように書いていたのに、書くように話すのはとても大変なことです。書き言葉が重要な意味を持ち始める転換期です。大学を卒業して社会人になり、本格的にフォーマルな話し方や書き方を習って行くこととなります。そして大学を卒業して働くこと10数年の35、6歳になってやっと一人前に報告書を書き常務会などで報告ができるようになります。日本だけではなく外国でも同じ過程を踏みます。

ただし、社会人になっても一日中フォーマルなコミュニケーションをしているのではありません。朝起きると家族と親密なコミュニケーションをします。会社に行き顧客とフローズンなコミュニケーションをしたり、同じ課の上司や同僚とフォーマルな会話をしますが、会社が引けると同僚と酒場に行き、インフォーマルからカジュアルなコミュニケーションにスイッチします。これを称して「呑コミュニケーション」と言う人もいます。そしてほろ酔い気分でもた親密なコミュニケーションができる家族のもとに帰るのです。こうでもして緊張から解き放たれなければ人はやっていけません。そして、時には、小学校、中学校、高校や大学のかつての遊び仲間と親密でカジュアルなコミュニケーションを楽しみます。それぞれのスタイルにあったコミュニケーションがありそれに符合することばがあります。それぞれのスタイルのことばにはそれ特有の構造があり、このような重層化されたものが日本語なり英語なりの言語を構成しているのです。すなわち、言語を知っているということは、親密からカジュアル、インフォーマル、フォーマル、フローズンのスタイルのことばを知っていることなのです。

日本人はなぜ英語が話せないのか？

日本人は6年、7年、8年も英語を勉強しているのになぜ英語ができないのでしょうか？「英語ができない」のではなく「英語でコミュニケーション」ができないのです。その原因の一つが中学校からの英語教育に使われている教科書がフォーマルな英語を元に書かれているからです。ネイティブ・スピーカーの中学生でさえまだカジュアルからインフォーマルなコミュニケーションを楽しみ、それに符合した言葉遣いを楽しんでいるときに、日本の中学校の英語はあまりにもフォーマルでつまらない。何語であれカジュアルなコミュニケーションでは、分かっている事柄をわざわざことばにしません。主語が分かっていたら、主語抜きで「食べた」でよいのです。英語ではAte it!でよいです。主語は見れば分かるから省くのです。でもこのような話し方をしたら日本の中学校の英語クラスでは間違いになってしまいます。それを間違いとしない自然な場作りの工夫がありません。

スタイルによって違うのは文法だけではありません。発音、語彙、意味全ても違うのです。例えば、カジュアルなストリート・トークでは、怒ったりしている時に日本の教科書に書いてある発音記号どおりに誇張して発音します。

**Mary:** Hi, Jack!

**Jack:** .....

**Mary:** Well, how are you, Jack? (怒って非常にはっきりという。)

**Jack:** I hear you. Mary. Don't get mad.

**Mary:** I just said, "Hi!" But you didn't answer.

色々な状況でコミュニケーションしてみないと分かりません。またカジュアルな会話でしか出てこない語彙や単語の意味、いわゆるregisterは沢山あります。人々はこれらを使って生活しているのだから、実際にこれらが分からないと英語は分からないことになります。もちろん、外国語としての英語を習う教科書がフォーマルな言説をベースにしていることを全て間違いであると言いません。しかし、並行して生きた会話を交わす場を作り出さなければ、何年経っても英語でコミュニケーションができるようにはなりません。

筆者の研究室では、小学生、中学生、高校生、大学生がインターネットを使って、外国の友達とコミュニケーションをする場を造ってきました。小学生は小学生なりに、中学生は中学生なりに、高校生は高校生なりに、大学生は大学生なりにかなり自由に英語でお互いの意見を交換しています。かなりカジュアルでインフォーマルな場を設定し、フォーマルな英語のノームから少し位ずれても英語を直したりはしません。コミュニケーションが成立すればよいのです。子供たちは体を使い見せたり音を聞かせたりしながらして英語を使い結構楽しくコミュニケーションをしています。社会人になってやっと身に付けていくフォーマル・スタイルのコミュニケーションやことばを、中学生や高校生はもちろんの事、大学生にさせようとしてもできないものはできません。まず仲間を作り、親密でカジュアルなコミュニケーションをする場を造り、そうしたコミュニケーションを身に付けなければフォーマルなレベルには到達できません。母語でさえそうなのですから。



私は、1970年代初頭にサンフランシスコ湾にある州立大学で日本語を教えていました。そこに沢山の日系3世の若者が集まりました。クラスは活気がありとても良い授業であったと思いますが、学生が口を揃えて言うのです。My grandpa and grandma don't speak Japanese that way. 1世の殆どが沖縄、九州地方、中国地方、東北地方からの出身者で標準語を話さないのので、授業で習った日本語では通じないと言うのです。しかし、当時の日本語の教科書は標準語を元にした、ごくありふれた教科書でした。これらの3世は、同じ屋根の下に住んでいながら、今までコミュニケーションがなかった1世とコミュニケーションをしたくなり、私の日本語のクラスに駆け込んできたのでした。自分達のheritageを知る意義を知ったのです。それは標準日本語にあるのではなく、それぞれの出身地方のことばにあるのです。そこで私たちはサンフランシスコを中心に、1世と3世が触れ合う場を作り、色々な企画を通してコミュニケーションの場を造りました。日本語のクラスでは「お爺さん、お婆さん」ですが、1世に親しみのある言い方は「じっちゃん、ばっちゃん」です。「言いました」ではなく「言いよった」です。そういう親密でカジュアルの日本語が飛び交う場を造ったのです。

考えてみれば、地方では親密、カジュアルな日本語は方言です。フォーマルになると標準語になるのです。インフォーマルなことばには方言と標準語が混じります。方言が暖かく聞こえるのはその為です。啄木の歌に上野駅に訛りを聞きに行ったという歌がありますが、方言が大切であると言うよりは、それよりも、親密そしてカジュアルなスタイルのコミュニケーションがいかに大切であるかお分かりかと思いません。私はそんなことで、よく日系の方々の結婚式やパーティーにお邪魔させていただきました。私の尊敬するある日系の老夫婦は島根出身で、このご老人がその地方のことばを話す最後の世代で、なんと北米に在住されていたのです。とてもとても暖かい、人を包み込むような日本語でした。老いた父母を日本に残して渡米した当時の私を孫のように招き、戦前戦後の苦労話を島根弁で朴とつと話されていました。

[ページトップへ](#)

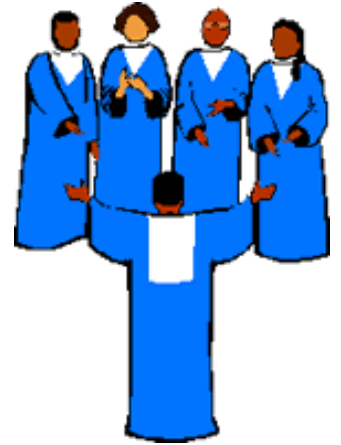
## ハーレムで見たストリート・カルチャーの魅力

ここでよく分かることは、グローバル化とはよく言うある国のフォーマルカルチャーへの一極集中ではなく、個人と個人、村と村、街（ストリート）と街（ストリート）を結ぶ親密、カジュアル、インフォーマル・スタイルのカルチャーの交換です。ギブソンなどが考えたglobalizationの本来の意味にはスタンダードということばはそぐわないのです。

そこで冒頭に掲げたハーレムの話に戻ります。たった4泊5日の短い滞在でしたがコロンビア大学のゲストハウスに宿泊し、ヒル先生との共同研究の打ち合わせの間を縫って一人で3度ほどハーレムの中心街に足を運びました。1970年代には考えられないくらい安全な場所になっていました。タイムスクエアに

行ってショッピングもよいでしょうが、かつて筆者の親友が暮らしていた東オークランドの繁華街のようで、何か懐かしさを覚えて3度も散策をしたのです。通りには店が溢れどこもかしこも物を売り買いする人で一杯です。音が溢れ映像が溢れそしてとてもカラフルです。叫び声、歌、子供たちの遊ぶ声、時には罵声とシャッターに描かれたオリジナルな絵、そしてアポロシアターには私の好きなコメディアンの宣伝ポスターが貼ってありました。ことばも含めてマルチ・メディア、マルチ・モードの表現が巷に溢れています。筆者が写真を撮っていると、一人のアフリカ系アメリカ人が大声で写真を撮るなと怒鳴って近づいてきました。筆者も負けていません。君の写真を撮ったのではない、僕はこの町が好きで町全体の写真を撮っているのだからほっといてくれ、と咄嗟のストリート英語で言い返しました。Look, I ain't taking nobody's picture! Ain't none of yo business. So leave me alone! 彼は静かに立ち去りました。標準英語の文法ではめちゃくちゃですが、ここではこれが利くのです。

それから、近くのプロテスタント教会に入りました。日曜日の朝10時30分頃でまだ席はガラ空きでしたが、既にゴスペルが始まっていました。正面壇上には20人くらいのクアイヤーがおり、その横にはキーボード、ドラム、エレキギター奏者が居ます。一人の若い女性は何やらもそもそと歌い始めました。この人大丈夫かな思ってしまうくらい元気がありません。4、5分すると彼女は段々高揚してきて、やがてコーラスもそれに加わるとテンポも速くなり、やがて広い教会堂はプロも顔負けのコーラスで満ち溢れていきます。その内にクアイヤーの何人かは壇上で飛び跳ねながら歌い始めました。すると、椅子に座っていた聴衆の何人かがタンバリンをバンバン鳴らします。先ほどよたよたと手すりをつたい歩いて前の方に座った老婦人が突然立ち上がり、体を震わせて歌うではありませんか。それが10分ほど続きやがて席は一杯になりました。こんな凄いゴスペルは聞いたことがありません。日本でもゴスペルがはやっていますが、うまさはその比ではありません。ブルース・ブラザーズという映画の中で似たようなシーンがありますが、まさにあれに近いものです。



歌が終わると、私の前の席に座っていた老婦人がぐるりと私の方に向き、Do you understand English? 語りかけてきました。Yes, I do. というと小さな聖書とアメを2個私に差し出しながら、I have Japanese friends. と言いました。小さなアフリカ系アメリカ人の老婦人でした。よし、ここと日本の子供たちがお互いに文化を交換する場を造ろう、と筆者は固く決意しました。ストリートとストリートに育つ暖かい親密でカジュアルなカルチャーを交換することから相互理解は育つのではないのでしょうか。それにかけてみようと考えたのです。

[Back to top](#)



- iBT探検隊: iBTってなに? ■ 日本から発信する英語
- CIEEオフィス紹介:京都 ~慶應義塾大学SFC 鈴木佑治教授によるコラム~
- 必見! 耳より情報 ■ 言葉の玉手箱



\*TOEFLは、エデュケーション・テストング・サービス (ETS) の登録商標です\*

> [HOME](#)

## 言葉の玉手箱

連載：第12回

英語に限らず外国語を学習していると、言葉の世界の奥深さに気付かされます。古来の日本人は言霊（ことだま）と評して、言葉には霊が宿り、見えざる力を働かすのだと考えました。使い慣れた短いフレーズの中にもコミュニケーションを左右するほどの力があるのです。

毎回ご好評をいただいているこのコーナーでは、ETS公認コンサルタントの川手 ミヤジェイエフスカ 恩先生が、異文化間コミュニケーションにおける言葉の使い方の重要性に焦点をあて、興味深く解説してください。言葉の世界の面白さをお楽しみください。



Dr.川手 ミヤジェイエフスカ 恩(めぐみ)

テンプル大学ジャパン 大学附属英語研修課程 助教授

(Megumi Kawate-Mierzejewska, Ed.D, Temple University)

\*\*\*\*\*

2000年より、ETS公認コンサルタントを務める。

専門分野： 中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics)

### "Let's..."の使い方にご注意しよう！



気候もよくなってきて暑い日もあり、冷たいものが飲みたいなあという季節になってきたので、今回は「ビールでも飲みに行かない?」というような勧誘表現に焦点をあてて考えてみたい。

日本語では、話者と聞き手の社会的地位が同じで親しい関係にある友達同士や職場の同僚の間では、よく「飲みに行かない?」「飲みに行こうよ」というような会話を耳にすることが少なくないようだ。また、女性が同僚の男性や友人を深い意味もなく誘うという時にもこれらの表現は使われるようだ。では、異文化間ではそれらがどのように使われ、解釈されているのだろうか。特に男女間に焦点をあててみよう。

以前、アメリカに住んでいた時、アメリカ人の友人が我々も知っているある日本人の女性にノートを貸してあげたら"Let's drink after the exam. (試験が終わったら飲みに行こう)"と誘われたと言ってうきうきしながら話してくれたのを思い出した。結局、彼はその女性と出かけたわけなのだが、その話には続きがあり、なんと彼女は大学のアパートまで送っていった彼に"Do you want some tea?(お茶でも飲んでいかない?)"とあってアパートのなかに招き入れようとしたというものだ。このアメリカ人の友人は、まず、あまりよく知らないクラスメートの日本人女性から「飲みに行こう」と誘われた時『もしかしたら彼女、自分に気があるのかな?』と思ったという。しかし、お誘いを断る理由もないので大学近くの学生の溜まり場のようなタバーン (tavern:ビールなどが飲めて軽い食事もできる西洋風居酒屋) に行ったようだが、そのあと女性を一人で帰すわけにもいかないので大学のアパートの玄関まで送って行ったら、なんとまた「お茶でも飲んでいかない?」と誘われたので『なんて積極的なんだろう』と思いびっくりしたという。そしてさすがにそのお誘いはご辞退して帰ったというものだ。

さて、当の日本人女性といえば、日本でクラスメートや友人に「今日、暑いからビールでも飲んで帰ろうか」といって一緒に飲みに行くという感覚でアメリカ人を誘ったという。つまり、アメリカ人が想像した

ような深いわけは全くないのだが、試験が終わったら試験勉強をしたという労をねぎらうつもりで『一人で行くより仲間がいたほうがたのしいかな…。ノートも貸してもらったしビール一杯くらいおごってもいいかな』というくらいの気持ちで誘ったらしい。更に、お茶のお誘いも深い意味はなく『わざわざ送っていただいてそのままお帰りいただいても失礼かな』という気持ちから、ただ形式的に言ったのであるという。つまり、言葉の遊びであって、彼は断ってくるだろうということを想定しての発言であるというわけだ。



以上、このようなちょっとしたエピソードをとおしても、かなりの食い違い、誤解が見られる。アメリカ人の友人たち(男性)に言わせると、一部の日本人女性は男女交際にかなり積極的であるという。これはおそらくこのような誤解から広がっていくものに違いないのだろうが、男女間の言葉の使い方がいかに大切であるかということを考えてみる必要もあろうかと思われる。ちなみに、社会的地位の異なる教官などをこのような表現を使ってお誘いすると男女間での誤解という以前に相手に対する尊敬が見られないと解釈され、なんて無作法なのだろうと思われても仕方ないかもしれない。

[Back to top](#)

© 2004, CIEE All Rights Reserved.